

と き 2026年1月22日(木)

①10:00~12:05 ②13:30~15:35

*各回字幕付上映 開場は各回30分前

(上映時間 119分)

ところ 米子コンベンションセンター 小ホール

(米子市末広町 294)

第37回 東京国際映画祭
Nippon Cinema Now 部門
正式出品

- ◆一般社団法人日本臨床心理士会推薦
- ◆公益社団法人全国精神保健福祉会連合会推薦
- ◆公益社団法人日本公認心理師協会推薦
- ◆公益社団法人日本精神保健福祉士協会推薦
- ◆公益社団法人日本社会福祉士会後援

みんなもろい
街も、家族も、
わたしの心も

THE HARBOR LIGHTS

港に 灯が ともる

震災を知らない
わたしの物語

富田望生

伊藤万理華 青木柚 山之内すず 中川わさ美 MC NAM 田村健太郎

土村芳 渡辺真起子 山中崇 麻生祐未 甲本雅裕

監督・脚本 安達もじり 脚本 川島天見 音楽 世武裕子

エグゼクティブプロデューサー：大角正 プロデューサー：城谷厚司 堀之内礼二郎 安成洋 取材：京田光広 写真：平野愛
特別協力：全国映画センター 助成：●文化庁文化芸術振興費補助金（日本映画製作支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会
製作：ミナトスタジオ 配給：太楽 ©Minato Studio 2025 2025年/119分/DCP/日本

minatomo117.jp



山陰映画センターの
ウィークデーシネマ

『カムカムエヴリバディ』『心の傷を癒すということ』など数々のNHKドラマを演出してきた安達もじり監督。心に傷を負った女性・灯（あかり）が歩む、温かい再生への道のりを描きます。

THE HARBOR LIGHTS

港に 灯が ともる

大事なもんは、時間がかかるわ

不格好でも迷っても、少しずつ、少しずつ。
私と家族とこの町の再生への通過点。

神戸で、在日コリアン家族の下に生まれた金子灯(富田望生)。
在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、
父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や
震災当時の話が遠いものを感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせて
いる。



本作は高校卒業から 12 年間に及ぶ主人公の模索の
日々を、神戸の喧騒を舞台に繊細に紡いでいく。主人公・
灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が
初の映画主演作となる富田望生。

神戸で暮らす人々への膨大かつ綿密な取材を基に、震災
後をリアルに描くオリジナルストーリー。



一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れて
いた。

親戚の集まりで起きた口論によって、
気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。

そして、姉・美悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐ
り、家族はさらに傾いていく。

ある日、感情のコントロールを失い大声で泣きわめいてしまう灯。

薬をもらう病院通いだけでは一向に心は回復しなかった。

そんな時、高校時代からの親友(山之内すず)にある診療所を紹介さ
れる。彼女の母親も震災以降、PTSDを抱え続けていた。

診療所で泣きながら「なんで生きなあかんのやろ」と吐露する灯に、
医師(渡辺真起子)が静かに声をかける。

「金子さんのつらさが何なのか、一緒に考えてみませんか」

回復を目指していく中で希望を探し続ける日々。コロナ禍も経て、
いろんな人と出会い、支えられ、心を通わせ、家族とも向き合い、
灯は長い時間をかけて人生にかすかな光を見出していく。

©Minato Studio 2025

先着順ご入場 自由席 * 寒暖調整のできる服装でのご来場にご協力ください。

2026 年 【前売】一般 1600 円 障がい者・小中高生 1200 円

1/22(木) (障がい者の介助者 1 名無料・未就学児 無料)

【当日】一般 1800 円 障がい者・小中高生 1400 円

前売券販売

米子コンベンションセンター総合受付

販売時間 9 時～18 時

(12/9 12:00 より販売

2026 年 1/20 まで 休館日除く)

* お問い合わせ・ご予約: 山陰映画センター

* TEL (0852)25-5713/090-2003-6623

* FAX (0852)24-1916

* メール sanincinema1968@gmail.com



左記 QR コードでメール
送信画面が出ます。

◆前売券のご予約も承ります。

問合先まで、お名前・電話番号・タイ
トル・会場名・券種・ご来場の回・人数を
お知らせください(※切 1/19)